

## 「ファシリテーション」の考え方を日常生活に活かす



こんな困り感、感じたことはありますか？ちょっとした意見や思いのズレが解消されないままの対話は、なかなか問題解決には至らないと思います。そのようなとき、「ファシリテーション」の考え方をを使うと、共通の目的に向けた新しい考えが生まれたり、合意形成ができたりします。

ファシリテーションとは、**活動や物事を円滑にする、促進する**などの意味があり、集団による問題解決や、アイデアの創造等を促進していく働きのことを言います。\*参考「日本ファシリテーション協会」

今回は、ファシリテーションをする上で私たちが大切にしていることを紹介していきます。



### 対話の「目的」をそろえる

まずは「〇〇のための対話」の意識を共有し、目的を揃えることで、ズレのない対話がスタートします。ズレが生じたときは、目的や方向性を再確認することで軌道修正することができます。



このようなファシリテーションの意識をもち、参加者それぞれが前向きな気持ちで考えることで、「**会議で自分の意見を安心して伝えることができた！**」  
**しかも話し合いがスムーズになった！**

「**みんなの意見を集約して楽しい旅行に行けた！**」

「**相手に対して『こんな考えをもっていたのか』を気づきがあった！**」

「**教育相談で思いを伝えることができたし、学校の意図もわかった！**」

といった、ポジティブな結果につながることを期待できます。

進行調整役であるファシリテーターだけでなく、その場の皆（例えば家族会議の場合はお子さんも含みます）がファシリテートする気持ちをもつことも大切です。

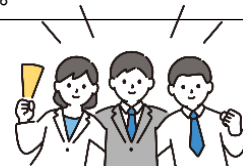
また、よりよい対話のために「リフレーミングの視点」が役に立つと考えます。悩みに対して新たな捉え方で他者の意見を認めたり明日へのエネルギーに換えたりするきっかけになるかもしれませんね。「リフレーミング」について、詳しくは教育相談だより第6号をご覧ください。

### 安心して意見を言い合える雰囲気作り

ファシリテーター（進行調整役）は、参加者が意見を言いやすく、安心して発言できるような雰囲気を作ることが大切です。参加者が「自分の発言を聞いてくれる」「自分の意見が大切にされる」と思えると、発言しやすくなるのではないのでしょうか。

【ファシリテーターとは？】

会議の目的を明確にし、中立的な立場でスムーズな進行ができるようにしたり、参加者の力を引き出しながらチームでの合意を図れるようにしたりするなどの役割があります。



**ファシリテーションの考え方を日常に活かして、日々の対話がよりよいものになるといいですね。**